

松中いじめゼロ宣言

この文章は、みんなが毎日通う学校を、いじめのない、誰もが安心して楽しく過ごせる場所にするための大切なルール（方針）です。

1. このルールは、なんのためにあるの？

- いじめは、心と体に深い傷を残す、とても危険なこと。時には命に関わることだってあります。
- 最近のいじめは、からかいや暴力だけでなく、ネットを使ったものなど、複雑で分かりにくくなっています。先生や親だけでは解決が難しいこともあります。
- だから、**「いじめは、どのクラスでも、誰にでも起こる可能性がある」**ということを忘れずに、学校全体でチームとしていじめ問題に取り組む必要があります。
- このルールは、みんなが安心して学校生活を送れるように、いじめを「なくす」「すぐに見つける」「すぐに対応する」ために作られました。

2. 「いじめ」って、どんなこと？

法律では、いじめをこう決めています。

- **定義**：相手が「心や体が苦しい、つらい」と感じたら、それは「いじめ」です。（ネット上でのやりとりも含まれます）
- ◆ ポイントは、「ふざけてやっただけ」は通用しないということ。相手がどう感じたかが一番大事です。

■ いじめの例

- 悪口、からかい、脅し、嫌なことを言われる
- 仲間はずれ、無視
- わざとぶつかる、たたく、ける
- お金や物をうばう、隠す、壊す、捨てる
- 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことを無理やりされる、させられる
- スマホやPCで悪口を言う、嫌な画像を流すなど

■ いじめが「解決した」と言えるのはいつ？

- ① いじめる行為が、3ヶ月以上完全にストップしていること。
- ② いじめられた本人が、心も体も「もう苦しくない」と感じていること。
- これは、先生や本人だけでなく、専門家も一緒に慎重に判断します。

3. いじめをなくすために、学校は何をするの？

(1) いじめが起こらないように、普段からやること

- お互いを大切にし、良い関係を築くためのコミュニケーション能力を育てる授業をする。
- 先生はみんなのことをよく見て、小さな変化にも気づけるようにする。
- 「いじめは絶対にダメ」という雰囲気を、クラスや学校全体で作る。
- 性的マイノリティ（LGBTなど）や、外国にルーツがある人、障がいがある人など、一人ひとりの違いを認め合い、大切にすることを学ぶ。
- 生徒会などを中心に、みんなが自分たちでいじめをなくす活動を進める。

(2) いじめを早く見つけるためにやること

- 定期的にアンケート調査をして、言いにくい悩みも見つけられるようにする。
- 保健室や相談室、PC やタブレットから送れる「おなやみポスト」など、いつでも誰でも相談しやすい場所をたくさん用意する。
- 先生たちは、いじめを見逃さないように、チームで協力する。

(3) いじめが起きたたら

- いじめられた人の心のケアを最優先し、全力で守る。
- いじめてしまった人には、なぜダメなのかをしっかり指導し、二度と繰り返さないようにする。
- 周りで見ていた子たちにも、いじめは許されないことだと伝え、不安な子のケアもする。
- もし命や体に危険があるようなひどい場合は、すぐに警察にも相談する。

(4) ネットいじめにはどうする？

- スマホやネットの正しい使い方、危険性を学ぶ「情報モラル教室」を開く。
- ネットパトロールをして、悪口などの書き込みを見つけたら、すぐに対応する。
- ネット上で他人の画像を悪用するなどの悪質な行為については、警察に相談して対応する。

一番大切なこと

もし君自身が悩んでいたら、絶対に一人で抱え込まないでください。信頼できる大人（先生、保護者、スクールカウンセラーなど）や相談窓口に、必ず助けを求めてください。

そして、周りで困っている友達がいたら、見て見ぬふりをせず、勇気を出して声をかけるか、大人に知らせてください。

みんなで力を合わせれば、学校はもっと安全で楽しい場所にできます！